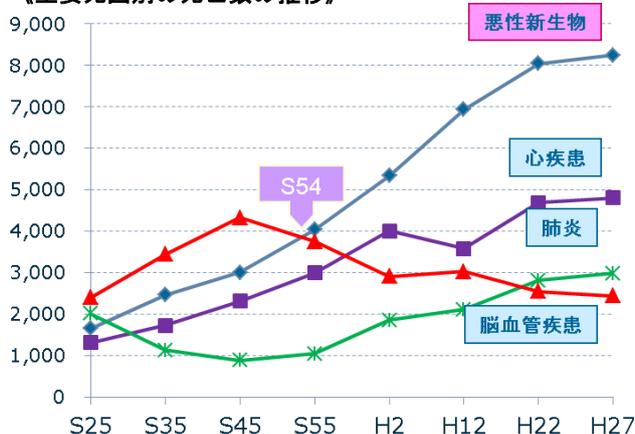


第 3 次「広島県がん対策推進計画」の骨子（案）について

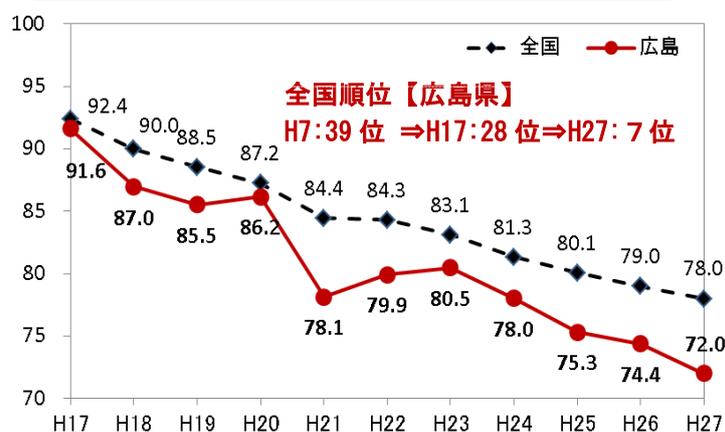
1 現状と課題

- ◆ 2人に1人ががんに罹る可能性があり、3人に1人ががんで死亡（年間8,000人以上）
- ◆ 本県において、がんは昭和54年以降死亡原因の1位、75歳未満の年齢調整死亡率は減少傾向にあり、平成27年は72.0人で現行計画の目標（72.5人）を達成
- ◆ がん検診の受診率は40%前後であり、たばこ等の生活習慣を含め、早期発見や予防に向けた県民一人ひとりの行動の変容が必要
- ◆ がん医療の提供体制は、県内全ての二次医療圏にがん診療連携拠点病院が整備され医療の均てん化が進んでいるが、より一層の効果的、効率的な体制の検討が必要
- ◆ がん患者が尊厳を持って安心して暮らせるようにするには、身体的・精神的苦痛に対する緩和ケアのほか個々の状況に応じた支援が必要

《主要死因別の死亡数の推移》



悪性新生物 75歳未満年齢調整死亡率（男女計、単位：人）



2 次期計画の基本理念と目指す姿（将来像）

平成27年10月に策定した「ひろしま未来チャレンジビジョン」に掲げる「がん対策日本一」を実現するための基本理念を定めるとともに、施策の基本的な考え方を明確にし、目指す姿（将来像）の実現に向けた取組を推進する。

[基本理念]

- ◆ 「県内のどこに住んでいても、どんながんであっても、必要な手立てや情報を受けることができ、安心して暮らせる広島県」を目指し、総合対策を強化する。
- ◆ 県民みんなが、がんを自分にも起こり得ることとして関心をもち、それぞれの立場で予防や検診も含めた「がん対策」に取り組む社会をつくる。

[目指す姿（将来像）]

現行計画と同様に「がんによる死亡者の減少」を目指す姿（将来像）とすべきか、
国計画と同様に目指す姿（将来像）としないべきか（別紙参照）

3 総合的ながん対策の推進

次の3つの分野を柱として、それぞれの目指す姿の実現に向けた取組を進め、総合的ながん対策の推進を図ります。

分野	各分野の目指す姿	取組項目
1 がん予防・がん検診	(1) がんの1次予防 ①がんになるリスクを軽減するための有効な対策が県民に知られ、実践もされており、がんになる県民が減少しています。 ②肝炎ウイルス検査が陽性であった県民すべてが医療機関を受診しています。 ③県民一人ひとりが、がんを自分にも起こり得ることとして関心を持ち、がんにならない生活習慣を心掛けています。	1 たばこ対策の強化 2 感染症対策の強化 3 生活習慣の改善
	(2) がんの早期発見、がん検診（2次予防） ①県民にとって受診しやすく、かつ死亡率減少につながる科学的根拠に基づいた「がん検診」が県内で実施されています。 ②早期発見の重要性に対する県民一人ひとりの理解が根付いており、「がん検診」及びその検査結果に応じて必要となる「精密検査」を受診することにより、早期発見につながっています。	1 科学的根拠に基づくがん検診の実施 2 がん検診の精度向上 3 がん検診の受診率向上
2 がん医療	(1) がん医療の充実 ①どこに住んでいても、どんながんになっても、安心して適切で安全な患者本位のがん医療を受けることができます。	1 医療提供体制の充実強化 2 医療内容等の充実
3 がんとの共生	(1) がんと診断された時からの緩和ケア ①がんと診断された時から、希望する場所で、すべてのがん患者とその家族が、適切な緩和ケアを受けられる体制が整っています。 ②“がんと共に”自分らしく生きるための地域における療養支援体制ができています。	1 緩和ケアの提供体制の構築 2 緩和ケアの質の向上 3 人材育成の充実 4 緩和ケアに対する正しい理解の促進
	(2) 相談支援、情報提供 ①県民一人ひとりが、がんに関する正しい情報の提供を十分に受け、正しく理解し、それぞれの立場で予防や検診を含めた「がん対策」に取り組んでいます。 ②がん患者が納得した治療を受けながら、家族等とともに不安や悩みをいつでもどこでも相談でき、安心して療養生活を送っています。	1 がんに関する情報提供・普及啓発 2 がん患者・家族等への相談対応
	(3) 社会連携に基づくがん対策・がん患者支援 ①どこに住んでいても、どんながんになっても、安心して適切で安全な患者本位のがん医療を受けることができます。(再掲) ②がん患者が納得した治療を受けながら、家族等とともに不安や悩みをいつでもどこでも相談でき、安心して療養生活を送っています。(再掲) ③“がんと共に”自分らしく生きるための地域における療養支援体制ができています。(再掲)	1 医療提供体制の充実強化(再掲) 2 緩和ケアの提供体制の構築(再掲) 3 緩和ケアの質の向上(再掲)
	(4) がん患者等の就労を含めた社会的な問題 ①医療機関や職場の十分な理解と協力を得て、がん患者・家族等が仕事・家庭生活と治療を両立させながら、尊厳を持って自分らしく生きることができています。	1 仕事や家庭生活と治療の両立支援 2 働きやすい職場環境と相談支援体制づくり
	(5) ライフステージに応じたがん対策 ①がん患者・経験者等が個々のライフステージに応じた様々な課題について、切れ目のない必要な支援を受けることができます。	1 小児・AYA世代への支援 2 高齢者世代への支援

4 計画期間

平成30年度からの6年間

第3次広島県がん対策推進計画の目指す姿(将来像)

資料2-1別紙①

国(第2期がん対策基本計画)	国(第3期がん対策基本計画素案)
<p>第3 全体目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 がんによる死亡者の減少 (75歳未満の年齢調整死亡率の20%減少(10年)) 2 全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上 3 がんになっても安心して暮らせる社会の構築 	<p>第1 全体目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実 ～がんを知りがんを予防する～ 2 患者本位のがん医療の実現 ～適切な医療を受けられる体制を充実させる～ 3 尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築 ～がんになっても自分らしく生きることのできる地域共生社会を実現する～
県(第2次がん対策推進計画)	県(第3次がん対策推進計画骨子(案))
<p>目指す姿(将来像)と全体目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 がんて死亡する県民の減少 (75歳未満の年齢調整死亡率の10%減少(5年)) 2 全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上 3 がんになっても自分らしく豊かに生きることのできる地域社会の実現 	<p>【第1案】</p> <p>目指す姿(将来像)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実 2 患者本位のがん医療の実現 3 尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築
	<p>【第2案】</p> <p>目指す姿(将来像)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 がんて死亡する県民の減少 (75歳未満の年齢調整死亡率の〇%減少(6年)) 2 (第1案と同じ) 3 (第1案と同じ)

【論点】

第2次広島県がん対策推進計画においては、国の計画を基本として、「がんによる死亡者の減少」を全体目標としているが、国の次期計画においては「がんによる死亡者の減少」は全体目標としない方向で素案が示された。

がん対策施策全体の数値目標としては「がんによる死亡者の減少」は県民に分かりやすく、第1次、第2次の計画においては「目指す姿(将来像)全体目標」としているところ。

第3次広島県がん対策推進計画の「目指す姿(将来像)」に、「がんによる死亡者の減少」を入れるべきか否かを協議したい。(目標値を設定する場合、具体の目標値については別途議論)

【国が「がんによる死亡者の減少」を全体目標としなかった理由】

○ 平成19年度からの10年間の目標としていた「がんの75歳未満年齢調整死亡率の20%減少」は達成できなかった。その原因として喫煙率やがん検診受診率の目標値が達成できなかったこと等が指摘されている。

○ 今後、がんによる死亡者を減少させるには、がんに罹る国民を減らすことが重要であり、予防のための施策を一層充実させていくことが必要である。

○ がんに罹った場合にも、早期発見・早期治療につながるがん検診は重要であり、その受診率を向上させていくことが必要である。

専門会議等による検討内容の次期広島県がん対策推進計画への位置付け

※次期計画の構成は国と同様に、目指す姿に合わせて構成を変更する。

